

令和5年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す 学校像	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況		
<p>【学習指導】 授業中の生徒のタブレット使用に関しては教員や教科、学年によって使用頻度にばらつきが出てしまったようなので、全ての教科でタブレットをどの場面で活用するのかを明確にした上での確実な実施。また、教員個人のタブレット活用や利用技術についても使用頻度に差があったので、相互授業参観などを通してICT利用技術に関しては情報を共有し、利用技術の更なる向上を図る必要がある。次に「単元別指導と評価の計画」を意識した観点別評価の適正な運用については実施初年度ということもあって、計画に関しても指導に関しても評価に関しても手探りで実施であったので、より一層全職員の共通理解の下、教員の授業改善、生徒の学習改善につながる運用を目指す。朝ドリルを実施したり、放課後や長期休業中の時間を利用して指導する機会を設け、フォローアップに努めることはできたが、生徒自身の学習に対する意識の変容までは困難な現状にある。</p> <p>【進路指導】 まず、就職関係では企業やハローワークと綿密な情報交換による連携が図れたのでその結果、会社見学と学校紹介による内定を100%実現できた。また、求人票閲覧システム「Handy進路指導室」の活用により、生徒及び保護者にも十分な情報提供が可能となった。進学関係では、3学年の職員の尽力によりほぼ全ての生徒がオープンキャンパスに参加することができた。次年度への課題としては、進学指導に力を入れる時期と、会社見学から就職先決定に至る時期が重複して、進学指導にやや不十分な点があった点、就職・進学の資料及び電子データ整理を計画的に進められなかった点、就職活動における企業見学の数の3点である。</p> <p>【生徒指導】 校内のルールやマナーが浸透し、規範意識の高い生徒の割合が増えてきたことから、全体的に落ち着いた雰囲気で学校生活を送ることができている。交通事故発生件数の増加、交通マナーにそぐわない自転車の乗り方、ゴミのポイ捨てなどのモラルの欠如といった校外の部分では改善すべき点みられたので、基本的な生活習慣、服装容儀、ネットモラルなどその必要性を説きながら引き続き様々な場面で根気強く指導していきたい。また、交通マナー、安全運転、公共マナーについて指導する機会を増やし、学校内外で真に社会性のある生徒を育てたい。多様性を重視する社会状況を真摯に受け止めて、旧来の指導方法を見直す謙虚な姿勢を全職員がもつ必要性を感じる。</p> <p>【特別活動】 学校行事に関しては、感染対策を実施しながら昨年度より一歩進んだ形で実施し、文化祭については、保護者のみの招待ではあったが公開することができた。生徒会役員・実行委員が活躍し、生徒の意向が十分に生かされた行事運営ができた。また、生徒総会に向けての意見集約、行事後の振り返り等を通して各々の生徒が生徒会活動に主体的に参加する姿が見られた。一方、次年度への課題としては、文化祭等の準備のためのHRが十分確保できなかったため、行事内容の精選や文化祭までの準備期間の検討と、部活動運営を円滑化を念頭に置いた部活動数の精査、顧問編成の検討、部室施錠の徹底をするために、顧問・生徒が連絡を密にする必要性が挙げられる。</p>	生徒の個人的資質の向上	○基本的な生活習慣の確立及び豊かな情操とコミュニケーション能力の向上 ○授業、部活動、学校行事等、学校教育活動全体を通じて達成感、生徒の自己肯定感の向上 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善による、新時代に求められる資質・能力の向上			
	商業に関する専門的知識の育成	○教科内の連携による指導法の共有及び授業公開と意見交換による教員の授業改善 ○タブレット端末や電子黒板等、ICT機器を有効に活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現 ○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成			
	保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくり	○出前授業や学校Webページ等、教育活動の効果的な情報発信による募集人員の定数確保 ○キャリアパスポートの活用及びキャリア教育の充実による進路実現100% ○ボランティア活動や課題研究等、地域社会と連携した体験的学習及び課題解決学習の充実			
	生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくり	○カリキュラム・マネジメントを推進し、計画的かつ組織的な教育活動の向上 ○PDCAサイクルを機能させ、学校評価と関連付けた教育内容の質の向上および教師の授業改善「授業に対して肯定的に評価している生徒」の割合90%以上 ○組織マネジメントの推進、教職員間の活発な意見交換による学校運営及び業務の改善			
	安心・安全な学校づくり	○生徒が安心して学習に取り組める環境づくり ○いじめ・体罰・災害等の防止及び迅速な対応 ○ホームルーム、授業、二者面談及び三者面談等、生徒一人一人と向き合う丁寧な対応			
	働き方改革の一層の充実に向けた業務の効率化	○各業務について、教育の目的達成に適切な方法となっているか不断の見直し ○校内における情報の共有化の推進 ○地域の人的・物的資源を活用した教育活動の推進			
	三つの方針	具体的目標	評価	次年度（学期）への主な課題	
	「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校		
		「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○次の6項目を推進することにより、鬼怒商業高校生としての誇りをもちつつ、将来、地域のリーダーとして社会に貢献できる「人財」の育成に努める。 1 生徒の個人的資質の向上に努める。 2 商業に関する専門的知識の育成に努める。 3 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。 4 生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくりに努める。 5 安心・安全な学校づくりに努める。 6 教育活動の一層の充実に向けて、業務の効率化を図る。		
		「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・) ポリシー	○世の中の動きや商業に興味があり、商業に関する学習をしたい生徒 ○簿記・情報処理などの資格や商業の学びを生かして進学・就職したい生徒 ○目標をもち、本校での学習をとおして自分の可能性を伸ばそうとする生徒 ○学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科	国語	国語の基礎的な知識・技能を習得するとともに、思考力や判断力を育成する。	定期テストや単元テストに加え、ノートや課題集等の点検を行い、学習内容の理解度を評価する。		
			文章を論理を正しく読み取ったり、わかりやすく説明したり、情報を適切に取捨選択したりする力を身に付けさせられるよう指導する。		
		様々な状況に応じて書いたり、話したり、聞いたりすることにより、表現力を育成する。	感想文や実用的な文章を書く授業や、スピーチや話し合い等の授業を通して、自分の考えを構築し、表現する機会を設ける。		
			ICTを活用し自己の学習を振り返ったり、学びを深めたりする助けとする。		
	自ら考え、主体的に学習する態度を養う。	積極的に漢字検定を受検する生徒を増やし、合格に向けて援助する。また、自治体が主催する例			
	社会	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を行い、生徒の学習意欲を高める。	ICT機器の効果的な活用によって、生徒が取り組みやすい身近な話題を学習課題として設定する。		
			対話型の授業を展開し、グループワークを単元ごとに取り入れる。また、発問を工夫したり、パフォーマンス課題を設定したりするよう心がける。		
		社会の形成者となるための資質を養う。	様々な資料を利用し、外部機関との連携を図りながら、成年年齢の引き下げにより生じる様々な問題や責任について考えさせ、知識を習得させさせる。		
		基礎学力の定着を図る。	授業内容の確認プリントやワークシートのチェックを通して、個々の生徒の能力に応じた、きめ細かい指導を行う。		
	数学	生徒の学習意欲・基礎学力を向上させる。	基礎基本的な学習内容を理解したあとの問題演習の時間を十分に確保することで知識の定着を図る。解説の際、電子黒板やタブレットを活用する。課題等を活用し家庭学習の機会を確保する。		
			授業中に発問や机間指導を行い、苦手な生徒にはその都度個別に指導する。ワークやプリントの提出状況から生徒の理解度を確認する。適宜小テストを実施し、単元ごとの理解度を把握する。		
	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行い、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる。	問題演習の際に話し合い活動を取り入れ、意見を交流する機会を作る。また考えを黒板に記述させ発表させたり、その解答について考察する時間を設ける。			
理科	基礎的な学力の定着を図る。	中学での内容にもさかのぼって復習しながら、理科に関する基本的な法則・公式を理解し、一般常識にもつながる基礎的知識をしっかりと身につけさせる。			
	受け身ではなく、能動的な授業参加を促す。	生徒と教員及び生徒間のコミュニケーションを重視した授業を通して、生徒の発表機会を増やして自己肯定感を高めながら、理科に対する苦手意識を少しでも払拭する。			
	日常生活にあふれる科学的事象に対する興味・関心を高める。	ICT環境の有効活用及び、生徒実験・演示実験を適度に取り入れることで、科学全般に対する生徒の興味・関心を高める授業展開に努める。			
	物理実験室・化学実験室を整備し、他教科も含めた授業での有効活用を促す。	計画的に実験室の備品等の整備を進め、実験室等の活用を活発化して、実験・演習・映像教材視聴等の様々な形態の授業を取り入れる。他教科にも積極的に開放し、学校全体として有効利用を促す。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科	体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体づくり運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。		
		できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率75%以上を目指す。		
		体育的学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。		
		よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。		
	保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	ICTを活用して話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。		
	英語	基礎学力の向上	ICT機器を効果的に用いて、生徒の活動時間を増やし、知識の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。		
			単元ごとに評価問題等で知識の定着を確認し、課題を提出させることで、理解不足の生徒に対する継続的な指導に努める。		
		資格取得	1年生は全商英検3級合格者50%を目標に、上位の級の合格者も出るよう授業・課外等で効率的な指導に努める。情報ビジネス科の生徒には2級への積極的な取り組みを促す。		
		実践的コミュニケーション能力の向上	ALTとのチームティーチングを存分に活用し、主体的にコミュニケーションをすることで、リスニング・スピーキング能力を高める。 ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れ、他者との対話的なやりとりを通じて自らの考えを深めながら、コミュニケーションを積極的にしようとする態度を育成する。		
	家庭	主体的・対話的で深い学びを実現するために、基礎的・基本的な知識と技術を習得する	ICT機器を効果的に活用し、具体的でわかりやすい授業を展開する。		
			プリント・学習ノートの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。		
			実験・実習を通して、コミュニケーション能力を養い、協調性や自主・自立の精神を育成する。		
		家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。		
	商業	学力・指導力の向上を図る。	生徒一人一人の実態を把握し、「わかる」「できる」「楽しい」授業を目指し、知識の定着を図る。また、探究的活動を通してビジネスに関する課題を発見し、創造的に解決する力を育成する。		
			ICT機器を利用した授業の構築や授業研究を通して、授業改善を行い、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた指導力向上に努める。		
		商業教育の広報活動に努める。	地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解をさらに深めるために、体験入学や出前授業の内容を工夫して実施する。		
ビジネスにおける実践力の育成を図る。		商業を学ぶ中で、ビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける。ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成し、キャリア教育につなげる。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
校務分掌	教務	各教員間や各教科間におけるICT機器活用度合いのばらつきを解消するためにより一層技術向上を図り、授業中のタブレット使用頻度を増加させ、GIGAハイスクール構想の実現を目指す。	全ての教科でタブレットをどの場面で活用すると有効なのかを明確にした上で、生徒のタブレット使用頻度を積極的に高める。 相互授業参観を通してICT機器利用技術およびタブレット活用の情報を職員で共有し、利用技術の向上と活用頻度を高める。		
		「指導と評価の一体化」を念頭に置いた観点別評価の適正な評価規準の作成及び「単元別指導と評価の計画」の導入とその確実な運用。	昨年度の「単元別指導と評価の計画」による観点別評価を検証し、それ踏まえて改善をおこない運用する。		
		基礎学力の低い生徒への支援を充実させ、学業不振の転退学者の減少に努める。	「基礎力診断テスト」を有効活用し、基礎学力の向上を目指す。また、各学年においては積極的に朝ドリル等の機会を設け、あらゆる場面で学習習慣が定着できるよう促し、学業不振による転退学者の減少に努める。		
		生徒の個別最適な学習の支援および実現	生徒の能力差は年々大きくなっている現状を踏まえ、それぞれの生徒の学習進度に応じた学習内容の提示し、学習活動を支援する。		
		授業時間の確保に努める。	学校行事の計画を考慮しながら、行事の内容を吟味したり精選する事により、必要な時期に必要な授業時間が十分確保できるよう努める。		
		情報の保護・管理に努める。	手引きに沿った個人情報の保護を適正に管理する。		
		HPの適正な運営と教育活動の公表に努める。	ガイドラインの作成とそれに沿った活動を活性化させ、「開かれた学校」の理念のもと募集定員確保に向けた迅速な情報の公開を心がけ、本校教育活動のPRをする。		
	生徒指導	挨拶の活性化及び時間厳守に努める。	登校時の昇降口及び廊下等での挨拶を教職員全体で積極的に促す。また、時間厳守の大切さを様々な場面で伝え続け、登校時や授業開始の遅刻者数を減らす。		
		校則の遵守及びマナーある行動を促す。	月1回の頭髪服装指導に加えて、「服装指導票」を有効に活用しながら、日頃から就職試験等に対応できる身だしなみを定着させる。また、マナーある行動を促しながら、他人を思いやる心を育む。		
		ネットモラルを定着させる。	スマホ安全教室、道徳の時間、ホームルーム等を通して、SNSの使い方、インターネットに潜む危険を指導し、ネット上のトラブルを未然に防ぐ。		
		交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ。	自転車点検、交通安全講話、バイク実技講習会等を実施すると共に、校外立哨指導やHR等で日頃から交通安全に関する注意喚起をし、危険が伴う「ながら運転」などをなくし、交通事故件数を減らす。		
		教職員間の情報交換を密にして、問題行動を未然に防ぐ。	職員の学年内外の風通しをよくして、生徒間のトラブルや問題行動が起きないように素早く対処する。また、盗難事件や問題行動が起ってしまった場合には、個ではなく、組織的に迅速に対応する。		
		教育相談活動を充実させる。	年4回の面談（2回は担任及び副担任との二者面談、2回は保護者面談）に加えて、SCによる生徒、教員、保護者へのカウンセリングの場を用意し、生徒が一人で悩み等を抱えこまない環境を作る。		
特別活動	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。			
	部活動の適正な運営や効率的・効果的な活性を図る。	多様化する生徒の活動ニーズに応えるため、可能な限り短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な指導を行い、部活動以外の様々な活動にも参加できるよう対策を講じる。			
		医・科学的観点を最優先に考慮し、適切な活動計画に基づいて指導する。			
	学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	各ホームルーム役員等を中心に話し合いの機会を設け、考え、判断し、必要なことを決定していくなど、活動を活性化させることで、主体的な学校行事の参加を促す。			
	生徒会活動を通してキャリアパスポートを支援する。	多くの行事を通して、自ら企画立案し、振り返りをしながら主体的な活動ができる力を育む。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
校務分掌	進路指導	進路について理解を深めさせ、個々の能力・適性に合った進路決定をさせる。	進路ガイダンスの時期・内容を検討し、学年との連携を図りながら実施に努める。		
			上級学校のオープンキャンパスや企業見学会への参加を促し、進路選択のミスマッチを防ぐように努める。		
			「進路の手引き」を発行し、進路希望の実現に活用させる。		
		進路の情報提供を充実させる。	企業、ハローワーク、上級学校との連絡を密にし、ICTを活用しながら生徒に的確な情報を提供する。		
		進路資料室の効果的活用を目指す。	生徒・職員・保護者への情報提供の仕方を工夫し、閲覧資料の整理に努める。		
	環境整備	清潔で安全な学習環境を目指す姿勢を育てる。	環境美化活動を通して、生徒の美化意識の向上に努める。		
			清潔で安全な学習環境になるよう、感染症などへの継続的な活動を心がける。		
			清掃道具を速やかに補充し、生徒自らが意欲的に校内美化に取り組む環境を整える。		
		環境美化を主体的に実践しようという意欲を育てる。	生徒が、環境美化への自主的な取り組みができるよう委員会活動などを通して働きかける。		
	保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	衛生管理の向上を図り、感染症等の予防対策に努める。		
			諸検診の効果的な実施に努める。保健室の効果的な運営に努める。		
			外部講師を招いた性に関する講演会を実施する。		
		学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。		
		学習環境を整備する。	冷暖房中の適切な室温管理、換気の励行。生徒の学習活動における健康・安全管理に努める。		
	水質検査および室内環境検査等を実施する。				

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
校務分掌	図書	図書室・第2図書室の環境を整備し、学習活動及び各種活動を支援し、情報収集・選択・活用能力を育成する。	蔵書の配置・装飾の工夫や、資料の整理・迅速な手続き処理などにより図書室を利用しやすい環境にするように努める。		
		読書習慣の推進と育成を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努める。	1年生全員に図書室利用のオリエンテーションを実施する。アンケートにより読書への関心等の状況を把握する。		
			新刊本の表紙をカラーコピーし、可能な限り（60%以上）資料の提供を行う。情報機器の利用を工夫し放課後等の活動に活用する。		
			リクエストボックスやアンケートをとおして購入希望図書を募り、希望の60%以上を購入する。		
			生徒発行の「図書室だより」を年間3回以上発行して読書のよさを周知し、読書に対する関心を高める。さらに、図書館関係行事の広報に努める。		
	図書委員の自主的・主体的な活動が活発になるよう促す。	図書室内の装飾・蔵書点検・環境整備・リクエストボックスの回収等における図書委員の活動を通じて、主体的な活動を推進する。			
	渉外	PTA総会・各種行事、会合への保護者の参加率を高め、学校・家庭との連携を密にする。	PTA総会をはじめ各行事への参加率を高めるための工夫・改善をする。		
			学校の教育活動を積極的に広報するため、メール配信やPTA広報紙「鬼怒」の充実を図り、保護者の学校理解を深める。		
			会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。		
			高P連やさわやかマナーアップ運動等の学校内外への保護者の積極的な参加を促し、得た情報を共有する。		
PTA支部研修会を実施し、保護者同士・職員の情報交換を行い、協力体制を確立する。					
スクールバスの安心・安全な運行を継続する。		スクールバス運行委員会において、問題点を把握し、安心安全に通学できるようにする。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
学 年	一 学 年	時間厳守の徹底	適切な起床・就寝時間等基本的な生活習慣を確立し、時間の大切さを意識させ、学校生活において時間に遅れず行動することを習慣化する。		
		コミュニケーション能力の育成	挨拶を励行し、学校行事等を通して生徒同士のコミュニケーションを密にするとともに、相手の気持ちを考えて行動する共感力を育成する。		
		規範の順守	本校のルールを理解し、守る大切さを指導する。また、誠実で信頼される人物像を目指し、社会規範意識の向上に努めていく。		
		主体的に学習する態度を育む	授業に意欲的に取り組み、自ら考える姿勢を身に付けさせる。また目標を持って検定試験に臨み、多くの資格を取得できるよう援助する。		
		進路意識の醸成	LHRや進路行事を通して、必要な情報を提示し、将来を見据えた目標を設定させる。		
	二 学 年	集団生活における基本的な生活習慣とマナーの確立	挨拶と時間厳守を習慣化させ、集団生活において守るべきマナーをふまえた行動を促す。		
		コミュニケーション能力の育成	自分の考えや意見を相手に言語で適切に伝え、相手の話にも耳を傾けられるような姿勢を育てる。		
		学校行事への主体的な参加と、リーダー資質の養成	学校行事等で、中心となって活動できるようリーダーシップを育成する。		
		資格取得に向けた効率的な学習の定着	習熟度別学習などをふまえ、生徒が授業で互いに質問したり、教えあったりできる環境を作る。		
		適性に合った進路実現への準備	進路ガイダンスやインターンシップを通して、卒業後の進路について具体的なイメージが持てるよう支援する。		
	三 学 年	生徒の進路実現に向けて、支援を行う。	生徒が進路を適切に決定できるよう、適切な進路行事を計画・立案し、学年職員全員で支援する。		
			就職においては、必要に応じて保護者を含めた面談を必要回数実施し、離職率の低下につながる指導を行う。進学者においては、奨学金についての案内がきちんと保護者へ届くように教員の連携を図る。		
		社会人となるために必要な、知識やマナーを身に付けさせる。	各教科と連携を図り、一般常識や、最低限の知識の定着に努める。		
			商業科目の知識を活かし、社会で役立つITパスポートなどの国家資格や、全商簿記取得に積極的に取り組ませる工夫を行う。		
			HRや集会を通して、社会人として必要な礼儀作法や言葉遣いなどのマナーについて、きめ細かい指導を行う。また、他者を思いやり協調性を育む指導を日常生活を通して行う。		

※ 評価基準 A：目標以上に達成できた B：目標を達成できた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った